

自然観察 NOW

NO : 34

野幌森林公園自然情報

発行 : 2018年11月4日

北海道ボランティア・レンジャー協議会

ホームページ <http://voluran.com/>



○ちょっと珍しい木

野幌森林公園内には、約120種類の樹木が生えています。その中には、昔からここ野幌の森に生えていた在来種や、国内の他の地域や外国から持ってきて植えられた外来種と呼ばれる樹木もあります。国内の他の地域から持ってきた樹木には、ウラジロモミやカラマツ、ケヤキなどがあります。外国から持ってきた樹木には、シナサワグルミやヨーロッパトウヒ、モンタナマツなどがあります。ここでは、今日の観察会コースで見られるちょっと珍しい木、ウラジロモミとシナサワグルミを紹介します。

ウラジロモミ<マツ科モミ属>

1、産地→本州の福島県南部から紀伊半島、四国の山地等の冷温帯に分布しています。マツ科の常緑針葉高木で日本特産種、大きいものは高さ40m、直径2mになります。

2、特長→樹皮は灰褐色で成木は平滑（つるつる）、老木では鱗片状（ごつごつ）にはげます。

葉は線形で長さ1.5~2cm、幅2~3mm、葉の表面は緑色、裏面には幅の広い2条の白色気孔線があります。この葉の裏の鮮明な白い線が最大の特長であり、ウラジロモミの名前の由来となっています。

3、用途→建材、包装、パルプなどに利用されます。

4、仲間→北海道に自生し野幌森林公園も沢山見られるトドマツの仲間です。違いは、トドマツでは樹皮が灰白色で平滑、葉の裏の気孔線の白色が薄いこと、葉先の2裂がはっきりしていることです。初めてウラジロモミを見た時には、トドマツにしては樹皮の色が茶色だし、葉の裏がやたら白く、葉先があまり2裂していないので変なトドマツだと思いました。何回か観察会を重ねて、トドマツではなくウラジロモミであると教えてもらい納得しました。桂コースの散策路沿いで何本か見ることができます。



<ウラジロモミの白色気孔線>

シナサワグルミ<クルミ科サワグルミ属>

1、産地→中国中南部原産の落葉高木で外来種、日本には明治15年（1882年）に渡来しました。

2、特長→樹高20~25mに成長する高木で、樹皮は灰褐色で縦に大きく裂けます。葉は主に偶数羽状複葉ですが、まれに奇数羽状複葉になることもあります。ヌルデの様に、葉軸には翼が付きます。

<偶数羽状複葉と中軸の翼>



枝への葉の付き方は互生です。春に房状の雌花と雄花をつけます。雌花は花後に実をつけ、花穂の長さは20~40cmになります。実(堅果)には、左右に幅の狭い三角の翼がつき秋に熟します。



<三角の翼のある実>

3、用途→街路樹のほか、緑陰樹として公園に植えられています。

4、仲間→日本原産種のサワグルミの仲間です。サワグルミは、日本各地に自生し北海道では渡島半島に分布しています。サワグルミとの違いは、サワグルミの葉は奇数羽状複葉で葉軸に翼が付かないこと、垂れ下がった実(堅果)は円盤状であることです。初めてシナサワグルミを見た時には、こんな大きなヌルデがあるのかと驚きました。シナサワグルミもサワグルミも、ふれあいコースの百年記念塔近くにあります。

渡りの季節 ウトナイ湖にも「冬の使者」続々と <10/17(水) 朝日新聞朝刊から>

「マガンやハクチョウなど冬の使者が、続々と北海道に飛来している。苫小牧市にあるラムサール条約登録湿地のウトナイ湖周辺では、収穫を終えたデントコーン畑や田んぼに、おびただしい数のマガンたちが次々と降り立っている。マガンは夏の間、繁殖地のロシア北部のツンドラ地帯などで過ごす。秋には美唄市の宮島沼やウトナイ湖などで羽を休ませ、昼は湖周辺の田畑で落ち穂などを食べて体力をつけ、大半は本州へ渡って越冬する。」と記載してありました。



10月の月上旬に私は、石狩市浜益地区でアオジの集団を見ました。田んぼの畔に生えていた、ミゾソバやイヌビエの種子を夢中で食べていました。アオジは集団をつくって本州方面に南下する途中だとのことでした。

最近散歩中に、ムクドリの集団をよく見ます。電線に連なって止まっていたり、街路樹のナナカマドの上に群がっていたりします。これも南下する途中だと思います。

<イラスト・マガンの渡り>

10月から11月は、春に南から北海道に渡ってきた夏鳥たちが、冬が来る前にまた南へ帰る渡りの時期です。ウグイスやヤブサメにキビタキは、台湾やベトナム、タイやフィリピンまで渡ります。マガンやハクチョウは、ロシアやシベリヤ方面から来て北海道で羽を休めて本州方面に渡ります。ハクチョウなどは夜も鳴きながら飛んでいます。

観察会案内

1月23日(金)	西岡水源地自然観察会	10:00~12:30	西岡公園管理事務所前集合・解散
1月13日(日)	円山登山観察会	10:00~12:30	円山八十八カ所登山口集合・解散
2月7日(木)	冬の森の観察会	10:00~12:30	自然ふれあい交流館集合・解散
3月24日(日)	森の中で春をさがそう	10:00~12:30	自然ふれあい交流館集合・解散

<参考とした図書など>

- ・「北海道樹木図鑑」「北海道の樹木ベストセレクト100」(佐藤隆夫著) 亜璃西社
 - ・「イタヤカエデはなぜ自ら幹を枯らすのか」(渡辺一夫著) 築地書館
 - ・「日本の樹木」(辻井達一著) 中央新書、他にネットから「ウラジロモミとシナサワグルミ情報」多数
- 文責：阿部 徹